

## 嘆願書

最高裁判所 第一小法廷 裁判官殿

もとオウム真理教の信者であり、アーナンダというホーリー・ネームを持ち、「諜報省の大臣」であった井上嘉浩<sup>よしひろ</sup>さんは、1995(平成7)年、3月20日の地下鉄サリン事件後、同年5月に同事件容疑で逮捕されたその年の12月には、自らの“非”を悟り、オウム真理教から脱会して、翌年3月の初公判において次のように述べました。

これからの裁判で私の知る限りのオウム真理教の実態を明らかにし、二度とこのような宗教の名のもとにおける犯罪がこの日本において起きないように出来る限りの償いを実践することを誓います。

それから約4年間の審議を経て、2000(平成12)年6月には、東京地裁は無期懲役の判決を言い渡します。そこでは、

被告人の刑事責任は極めて重大というべきであり、死刑を選択することは当然に許されるべきで、むしろそれを選択すべきであるものとする。しかしながら…(中略)…死刑が究極の峻厳な刑であり、その適用に当たっては、慎重かつ綿密に犯行の罪質、態様、結果等諸般の情状を検討し、真にやむを得ない場合に限りて選択することが求められることからすると、被告人に対して、死刑という極刑を選択することには、なお幾分か躊躇を感じざるを得ない。よって、被告人を無期懲役に処するのが相当と判断した。

と述べられています。そして井上弘道裁判長はこの判決が終わった後に、特にその説論の中で、「被告人に生を与える選択を取ることにした」<sup>こころ</sup>意を述べ、続いて「一人の率直な人間として謝罪の日々を送らなければなりません。」と語り、「片時たりとも、贖罪の気持ちをぬぐい去ることのないように」という呼びかけをもってその説論を結んでおられます。

井上嘉浩さんは、この判決と説論とをしっかりと受け止め、昨年つまり2006(平成18)年の12月に、この会(「生きて罪を償う」井上嘉浩さんを死刑から守る会)の事務局長である平野喜之に当てた手紙の中に、

私の犯しました罪は計り知れません。どんなに苦しみもがき、被害者の方々につぐないをしようと私なりに努力しましても、何一つつぐなうことのできない現実には言葉を失うばかりです。

と書き記しています。

ところが、2004（平成16）年5月に東京高裁は死刑の判決を言い渡しました。そこでは、「しかしながら」という逆説の接続詞を置いて、「量刑に当たっては」「死刑を選択するほかない」という結論に至る直前に次のように記されています。

（被告人である井上嘉浩は）捜査、原審及び当審と月日を重ねるにつれて反省の度合いを深め、自分の犯した罪の大きさに打ちひしがれ、その行為がもたらした惨状に驚き、被害者や遺族にどのように謝罪しても取り返しのつかない犯行をしたと後悔し、被害者らにわびている。現在では松本の影響から離脱し、もはや同種の犯行に及ぶ危険性は消失したといえる。もとより被告人には前科前歴がない。

この高裁判決においても、「もはや同種の犯行に及ぶ危険性は消失したといえる」とはっきり述べられています。

井上嘉浩さんは、「諜報省の大臣」であったことが示すようにオウム真理教の内部では中枢の位置にあったと思われます。そして「アーナンダ」（阿難）というホーリー・ネームが示しているように、麻原彰晃（松本智津夫）が最も信頼していた弟子の一人でした。

その井上さんがオウム真理教の誤りに気付き、麻原彰晃が似て非なる偽せ物であることを知ったことには大切な意味があります。自ら計り知れないほどの重大な罪を犯すことを通して、身を以って知ったその虚偽性である故に、恐らくは余の人には知ることができないような切実さを以って知った虚偽である故に、井上さんにはその虚偽を徹底的に批判して真実の宗教への道を切り開く可能性があるのです。われわれはその可能性の中にこそ、井上さんができる、また、井上さんにしかできない贖罪の道があると考えます。

それ故、最高裁におかれましては、東京地裁の判決のように井上さんをその罪の重さの故に無期懲役とし、その罪を償うためにこそ死刑からその身を守っていただくように切望し、ここに嘆願書を提出する次第であります。

「『生きて罪を償う』井上嘉浩さんを死刑から守る会」代表 こだまぎょうよう 児玉 暁 洋

私は、上記の嘆願文に賛同し、井上嘉浩さんへの温情ある判決を願って署名いたします。

お名前	ご住所
	〒
	〒
	〒
	〒
	〒
	〒
	〒
	〒
	〒
	〒
	〒

- ・ 署名は20歳以上の方をお願いします。
- ・ 上記の目的のため以外には個人情報を使用しません。
- ・ お名前とご住所は自筆をお願いします。

「『生きて罪を償う』井上嘉浩さんを死刑から守る会」事務局の宛先

〒603 - 8151 京都市北区小山下総町28 - 7 京極寺 平野喜之方

TEL&FAX. 075-432-0573